

区役所・関係機関との協働による 人生会議（ACP）の普及・啓発活動

中央区在宅医療・介護連携相談支援室の取組み

区の概況

推計人口 **119,443**人（R7年11月1日現在）
79,045世帯 1.51人／世帯
（65歳以上人口 **27,161**人）
高齢化率 **14.1**%

昼間人口**4**倍以上 外国人居住者多し



病院数	8
一般診療所数	314
うち在宅療養支援診療所	44
歯科医院数	250
うち訪問歯科	26
薬局数	123
うち訪問薬局	41
訪問看護ステーション数	23

- 大阪国際がんセンター
- 大阪医療センター
- 大手前病院
- 大阪歯科大学付属病院
- 日本橋病院
- 高津病院
- 原田病院
- 飯島病院

背景・課題・取組みのきっかけ

1) 2040年問題への対応

- ・医療・介護需要の急増の見込み
- ・一人ひとりの価値観や希望を尊重した支援の重要性の高まり

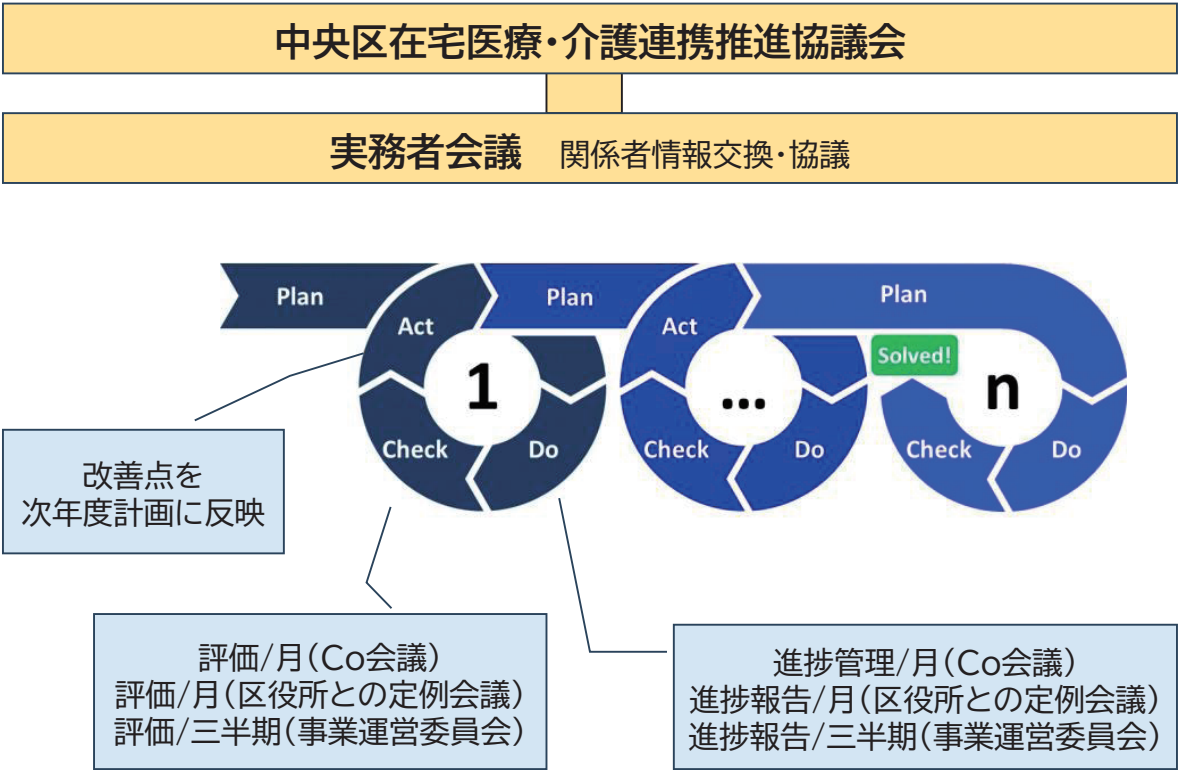
2) 本人の意思が十分に反映されにくい現状

- ・本人の意思を関係者が確認する仕組みが十分に整っていない

3) 多職種・多機関協働の場による取組みの蓄積と成果

- ・既存の多職種・多機関協働の場の定着が取組みの素地となった

活動のサイクル



人生会議（ACP）に関する課題抽出

区保健福祉課との定例会議

地域のあるべき在宅医療・介護提供体制の姿を共有

区民の人生会議(ACP)の知識不足	医療・介護サービス提供者の 認識不足と気おくれ
地域全体で継続的な取組みを！	療養の場の日常に人生会議(ACP) を！

めざすべき姿

- ・人生会議(ACP)の周知の工夫による動機付けや機会創出の促進
- ・区民が気持ちよく人生会議(ACP)にとりくむことができる

人生会議（ACP）に関連した地域の取組み

これまで

H23年度(2011)～
安心のまちづくりにつながる多職種協働の場

H23年度 (2011)	H24.2.4	第1回	「たん吸引と経管栄養など医療的ケアについて」 大阪府福祉部高齢介護室 居宅事業者課 角田龍哉	その人らしい生きざま、死にざま
H24年度 (2012)	H24.12.8	第2回	「超高齢社会における健やかな看取り」 ～その人らしい生きざま、死にざま～ 大島久明(南医師会顧問)	意思決定を支える地域ケアチーム づくり
H25年度 (2013)	H25.12.21	第3回	中央区で安心して住み続けられるために ここまで来た認知症の人のケア 宮崎和加子(全国訪問看護事業協会訪問看護事業協会)	あなたは介護が必要になったら、 どこで誰と暮らしたいですか
H26年度 (2014)	H26.12.6	第4回	中央区の地域包括ケアの未来をつむぐ 「地域包括ケアにおける病院の役割」 久山 純(大手前病院)	<大阪市中央区地域ケア研究集会実行委員会> 大阪市中央区南医師会 大阪市中央区東医師会 大阪市南歯科医師会 大阪市東歯科医師会 中央区南薬剤師会 中央区東薬剤師会 中央区居宅介護支援事業者連絡会 中央区訪問看護 事業者連絡会 中央区訪問介護事業者連絡会 中央 区通所介護事業者連絡会 CoCoネットちゅうおう (中央区認知症高齢者支援ネットワーク) 中央区オ レンジチーム 中央区地域包括支援センター 中央 区北部地域包括支援センター 大阪市中央区役所 (中央区保健福祉センター) 中央区在宅医療・介護 連携相談支援室
H 27年度 (2015)	H27.12.5	第5回	食べることは生きること～医食同源・職種を超えて 在宅医療におけるオーラルマネジメント 高橋一也(大阪医科大学)	
H 28年度 (2016)	H28.12.5	第6回	意思決定を支える地域ケアチームづくり 人みな生きて死にゆく ～幸せな看取りとは～ 大島久明(大島内科医院)	
H 29年度 (2017)	H29.12.2	第7回	地域ぐるみで取り組むリハビリテーション ～リハビリに笑いを～ 石田竜生(介護エンターティナー～作業療法士)～	
H 30年度 (2018)	H30.12.1	第8回	災害に備えるネットワークづくり(仮) ～中央区では何か必要か～ 黒田和伸(KZ防災企画)	
R1年度 (2019)	R1.12.7	第9回	あなたは介護が必要になったら どこで誰と暮らしたいですか 「これからの棲家 在宅・施設・多様な住まいについて」 濱崎勲(ライフマーク住まいサポート事業部)	

令和5年度 取組み

課題

医療・介護サービス提供者認識不足と気おくれ



既存の研修会の活用

第13回 中央区地域ケア研究集会

『多職種でいかに終活を支援するか』

～人生会議ってなに？～



・支援の重要性が分かった
・ACPに取り組みやすい
ツールがあればいいね

中央区内の関係者：137名参加



令和6年度事業計画に反映

令和6年度 取組み

あらゆる
世代へ

区保健福祉課との定例会議

地域全体で継続的な取組みを！
(取組みやすいツールの実現)

コンセプト

「人生会議に気持ちよく取り組む」

実務者会議で協議

ACP区民啓発事業を
こんな風にやりたいね...



中央区版 人生会議のてびき
おもいをのこしたえる
『おしえてちょう』作成・発行



大阪市中央区版 人生会議のてびき

おもいをのこしたえる

おしえてちょう

これは

このてちょうにはじめて記入した日
年 月 日

このてちょうに記入した内容を修正した日
年 月 日

あなたの名前
私

現在の
の思いです

思いや考えが変わったら、いつでも変更できます

課題修正

区民の人生会議（ACP）の知識不足

情報不足・機会不足・実践不足

区民向け普及・啓発活動

R6年区民向けイベント開催『人生会議 はじめませんか？』



・平日昼の開催であったため、参加者の年齢層は高かった

《参加者の声》

・書くことがむずかしい
・1人暮らしは誰に相談して『おしえてちょう』を書けばいいの？

区民：50名参加

説明を加え
参加者へ配布

令和7年度 取り組み

区保健福祉課との定例会議

多職種の意見を集約し、保健福祉課と検討を重ねる



関係機関の事業所内で人生会議（ACP）についての理解に温度差あり

区民だけでなく、関係機関にも人生会議（ACP）のサポートが必要

多職種と一緒に『おしえてちょう』のサポートツールを作ろう

サポートツール活用の効果を検証しよう

実務者会議で協議

サポートツールを考えるワーキング開催（3回実施）

- ツール内容項目・活用方法の検討・内容のブラッシュアップ
- 事業推進についての意見交換
 - ・ACP普及啓発の研修をしてほしい
 - ・意思決定支援の方法を盛り込んでほしい

[illegible]

地域全体で継続的な取組みを！

地域クリニック医師の講演+『おしえてちょう』記入説明と実践

- [illegible]

— 68 —

有床病院との連携

目標

より充実した入退院支援体制の構築をめざす

ACP

本人の思いをつなぎ続ける仕組みづくり

病院 ↔ 地域

人生会議（ACP）の視点での具体的な取組みはこれから・・・

- ・定期的な情報交換の場が必要
切れ目のない（seamless）円滑な（smooth）持続可能（sustainable）な連携
- ・支援プロセスの可視化（方法の検討）

《取組んだこと》

- ・拠点事業と連動した病院へのヒアリング（日本橋HP・高津HP）
- ・病院のACPの取組みと地域の取組みの情報交換会開催（大手前HP）
- ・ACPを含めたテーマでの交流会参加（大阪国際がんセンター）
- ・大阪医療センター（災害拠点病院）との災害訓練の企画案の協議・参加

成果

1. 普及・啓発ツール

「おしえてちょう」「サポートリーフレット」を作成

- ・本人の思いを「伝える」「共有できる」ツールとして活用

2. 区民向け啓発イベントの実施（区民参加者合計 93名）

- ・動機付けや機会を提供

3. 医療・介護関係者への人生会議（ACP）における知識と意識の向上（研修参加者：137名）

- ・医療・介護関係者各連絡会への波及

協働の基盤 区保健福祉課との定例会議

地域のあるべき在宅医療・介護提供体制の姿を共有

1. 役割分担の明確化と共有
2. PDCAサイクルによる継続的改善
3. 多職種・多機関との共有
4. 既存リソースの活用



土台作りは重要！

《当相談室の令和7年度事業の取組みの実際》

令和6年

- 10月 次年度計画案 検討
○区役所から複数年計画の提示
○次年度事業に関する協議
(予算立て・広報誌面の確保希望)

- 1月 次年度計画 検討をはじめる
○次年度事業の具体化 (期待する効果・評価方法)

- 3月 次年度計画 確定
○次年度事業計画の承認 (様式9 確定)

令和7年

- 4月 令和7年度計画の確認

毎年度開催される
「大阪府在宅医療介護
連携推進事業研修会」
の課題取組みを活用

前年度から
準備開始

今後の方向性



3月 中央区在宅医療・介護連携推進協議会
で今年度の活動の振り返りを行い評価する

《優先すべき課題》

- 要支援・要介護者への関与度の高い
医療・介護専門職へツールの広報と
活用の促進を図る
- 連絡会との連動で人生会議(ACP)取組みを推進

誰かに話す・伝える事が
重要！

人生会議に取り組む人や
その支援者を
ひといぼちにしない！

《課題内容》

- 幅広い世代への普及啓発の継続
- 協働基盤を活かした人生会議 (ACP)
実践の深化
- 病院と地域をつなぐ仕組み作り
- 持続可能で実効性のある取組みへ

まとめ



- 中央区の特性を踏まえた人生会議（ACP）普及が必要
- 協働の積み重ねが『活動の見える化』と『地域連携力向上』に寄与している
- 切れ目のない（seamless）円滑（smooth）な持続可能（sustainable）な支援体制の構築をめざす